この人に聞く

会員の医師らと協力し ミャンマー医療を支援

NPO法人日本・ミャンマー
医療人育成支援協会
岡山市北区番町2-6-7
TEL 086・224・0102
http://www.mjcp.or.jp

NPO法人日本・ミャンマー
医療人育成支援協会　理事長

岡山大学医学部卒、医学博士。アメリカ・ワシントン大学へ留学後、京都大学医学部講師を経て、1990年から岡山大学教授に。専門は人体病理学、金属毒性学、発がん病理学。定年退職後、2006年にNPO法人日本・ミャンマー医療人育成支援協会を設立して理事長に就任。岡山大学特命教授として後進の指導も行う。岡山市出身の71歳。

岡田　茂さん

おかだ・しげる

「ビルマ（現ミャンマー）へ戦争に行き、無事に帰った父が、現地での話を時々聞かせてくれた。そのせいか、子どものころからビルマはどことなく近い存在だった」。２００６年にＮＰＯ法人日本・ミャンマー医療人育成支援協会を岡山市に設立し、理事長を務めている。ミャンマーの医療人や医療協力者を育てるための事業を手掛けており、岡山・広島両県を中心に約四五〇人の会員がいる。

同会ではミャンマーの医師、歯科医師、薬剤師、看護師、その他スタッフなどの医療人と医療協力者の育成を支援。ミャンマーの医療高度化を推進するとともに「グローバル化する疾病に対して、ミャンマーと日本を拠点としたアジア全域にわたる高度医療を実践できる体制の確立を目指し、医療面における安全の向上に寄与する」ことを目的としている。

ミャンマーの医療関係者の研修・研究・学会出席などの目的での来日を促進し、国内の協力機関や協力大学で彼らの研究支援を行う。これまでの五年間で、岡山を中心に研修を行ったミャンマー医療人は二四人、協会を通じてミャンマーに設立された医療クリニックは五施設ある。また協会に関係してミャンマーを訪れた日本人は延べ一〇〇人以上。会員向けの機関誌「ミンガラバー（こんにちはの意）」の発行も行っている。

戦後の経済政策の失敗により、ミャンマーは世界最貧国の一つになっているという。民族間の憎悪から発展した内戦は今も尾を引いていて、現在の軍政はその名残とも言える。しかし教育熱心な国でもあり、英語教育が盛ん。小学校や寺院を中心とする初等教育は行きわたっており、医学教育をはじめとする高等教育は英語で行われている。医師たちは意欲的で有能だという。

ミャンマーでは依然として、感染症が猛威を振るっている。下痢症、蚊などが媒介する疾患、寄生虫病、結核などが多い。また熱帯地方特有の遺伝性血液疾患もある。国民医療は伝統医療が中心で、現代医学に対する知識はあっても、普及率は低い。「鳥インフルエンザのような感染症も、もはや局地的な疾患ではない。日本の将来的な健康政策も周辺諸国との連携を保ちながら進めなければならないが、これには同一の医学基盤に立つ医療人の信頼関係が何より大切」

１９８８年にＪＩＣＡ（国際協力機構）専門員としてヤンゴンの病院の新築・造営に携わるなど、同会設立前からミャンマーとのかかわりは深い。９６年、文部省科学研究費の国際学術研究に自身の論文「ミャンマー国肝がん発生要因としてのサラセミア症の鉄過剰症と輸血関連疾患の学術調査」が初採択されたり、２０００年からはＣ型肝炎対策を始めるなど、ミャンマーの医療に大きく貢献してきた。

福山に新拠点を開設

４月24日(日)、「ＮＰＯ法人日本・ミャンマー医療人育成支援協会福山支部」（福山市御幸町下岩成一一四四―三、あかね動物病院東棟）が開所する。「岡山市内の拠点はそのままに、新たに広島県に事務所ができたことで、より多くの人に会の活動を知ってもらうことができる。たくさんの方に活用してもらいたい」。支部内には、これまでの活動を記録したパネルを展示。訪れた人がゆっくり過ごせるよう、ソファセットなどを置いた。

24日に開所する福山支部

「戦時中は多くの日本人が、当時のビルマの人たちにお世話になった。今、私たちが恩返しをする時だ。ミャンマーから、日本の存在意義を無くしてはならないと思う。０２年には岡山大学とミャンマー保健省医学研究局との間で大学間協定が結ばれており、岡山大学を中心にミャンマーからの研修生を多く受け入れている」

二年前には、ミャンマーへ顕微鏡一八〇台を寄贈した。また昨年はミャンマーに赴き、現地スタッフらと協力して四日間で五三件の手術を実施。今年1月には医療関係者ら一四人が訪問、遺伝病を早期に診断するための対策を行った。

「発展途上国にも安心・安全な医療を届けたい。そのためには、現地の医療人が近代医療に通じている必要がある。病気のグローバル化に対応できる医療人が、世界のあらゆる地域に必要だ」と語る。

「できるだけ日本に来て医療の勉強をしてもらうとともに、日本人の持っている良いところも学んでほしい。医療に携わる人間として、できる限り支援を続けたい」